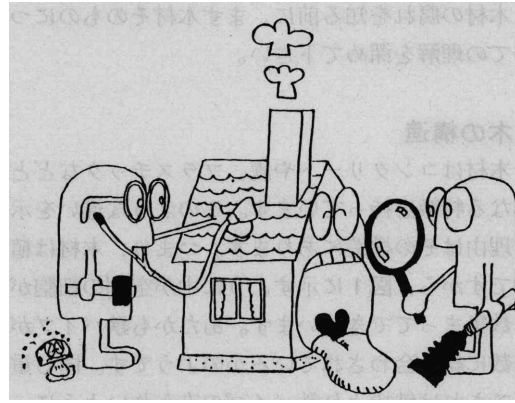


木造の建物は、鉄筋コンクリートや鉄骨の建物と比べて、長持ちしないと言われます。たしかに、ここ数年問題になっているナミダタケによる被害では、新築後数年で床が腐れ落ちるところがめずらしくありません。また、一般には木造住宅の寿命は20～30年と考えられています。このことは住宅金融公庫の融資内容や公営住宅の家賃などにも反映しているように思われます。

ところが我が国だけでも百年以上も長持ちして、現在でも使用している建物が結構あるのです。北海道は、開拓されて百年そこそこしか経っていませんので、一般住宅にはあまり見られませんが、札幌の時計台などが有名な一つの例でしょう。このように数年で大きなトラブルを発生する木造住宅がある一方で、耐久性に大きな実績を残してい



メンテナンスに心がけ、長持ちする家を

る木造建築物もあります。その差はどこにあるのでしょうか。

もちろん木造住宅の場合には、構造材以外の内装用造作材や屋根、その他の木材以外の材料などを、好みや陳腐化、その耐久性の弱さから模様替えせざるを得ませんが、構造材自体を百年間持たせることは十分に可能なのです。そのためにはどうすればよいかについて、ここでは主として木材の生物による損傷(腐れ)の生ずる原因と、その対策について解説することに致します。

木造住宅には間取りが自由である、増改築が容易であるなどの大きな特徴があります。子供の成長や、家族構成の変化にあわせて間取りを変更し、快適な居住性を長く保たせるにはメンテナンスが必要です。この特集がそのための一つの参考となればと思います。

なお、この特集号は次のとおり役割を分担しています。

文 土居修一，菊地伸一
イラスト 富樫 巖

